

【インドネシア地震】日本の技術力で復旧・復興支援／足立敏之議員が現地調査



ベトボ地区の被災現場を訪れた足立議員（左から2番目）

自由民主党の足立敏之参议院議員は昨年9月28日に発生したインドネシア中部スラウェシ島地震の被災現場調査を1月上旬に行った。調査には国土交通省河川計画課で足立議員と一緒に働いた経験があり、現在はJICA（国際協力機構）に出向し、専門家として同国に派遣されている早川潤氏と多田直人氏が同行。地震や津波等で約3500人の死者・行方不明者が出た大災害からの復旧・復興を、日本の技術者が支援している様子を確認した。

今回の地震では勾配1%程度の平たんな土地にも関わらず、世界でも珍しい液状化に伴う地盤の大規模流動により1000戸以上の家屋が流され、土砂に飲み込まれるなど甚大な被害が生じた。また流動化による被害に続き、被圧地下水の流出が原因と考えられる洪水が発生し、被害を拡大させた。地震に伴う洪水は、日本でもため池の決壊によるものはあるが「被圧地下水が原因というのは初めて聞く話」（足立議員）だという。

一連の現象に対し足立議員は「こういう現象は日本では起こっていないが、平野や扇状地が発達し、被圧地下水がある日本でも起こらないとは限らない。今回の被災から学んでおく必要があると強く感じた」と警鐘を鳴らす。

なお早川氏と多田氏は大規模流動の発生メカニズムの解明や今後の復旧・復興計画策定を担う。